

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

低リスク骨髄異形成症候群における予後因子の解析
<p><b>1. 研究の対象および研究対象期間</b></p> <p>2008年1月から2018年12月に昭和大学病院血液内科において診断された、診断時の骨髄検査で芽球5%未満の骨髄異形成症候群の患者さん</p>
<p><b>2. 研究目的・方法</b></p> <p>骨髄異形成症候群は異形成を伴う無効造血と前白血病状態を特徴とする骨髄のクローン性腫瘍性疾患です。MDSの臨床経過は多彩であり、芽球増加を伴うMDSは予後不良ですが、芽球増加を伴わないMDSの予後の層別化はまだ十分とはいえません。我々は当院で診断された芽球増加を伴わない低リスクMDSの予後層別化に関わる因子を後方視的な評価を行います。</p> <p><b>研究期間</b></p> <p>「医学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、昭和大学病院病院長の研究実施許可を得てから2021年12月まで</p>
<p><b>3. 研究に用いる試料・情報の種類</b></p> <p>2008年から2018年に当院血液内科において診断時の骨髄検査で芽球5%未満の骨髄異形成症候群の患者さんを対象とします。調査項目は、疾患名、末梢血液・骨髄穿刺所見、患者背景（年齢、性別、既往歴、現病歴、支持療法）、臨床検査所見（血液、生化学）、骨髄染色体検査、診断時からの生存期間、薬物療法（投与薬物）です。</p>
<p><b>4. お問い合わせ先</b></p> <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：医学部内科学講座血液内科学部門      氏名：馬場 勇太

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8338

研究責任者：馬場 勇太